

# 共通教育通信

KYOTO UNIVERSITY

vol.6  
2006 SPRING



# フィールド科学教育研究センター

フィールド科学教育研究センター長 田中 克



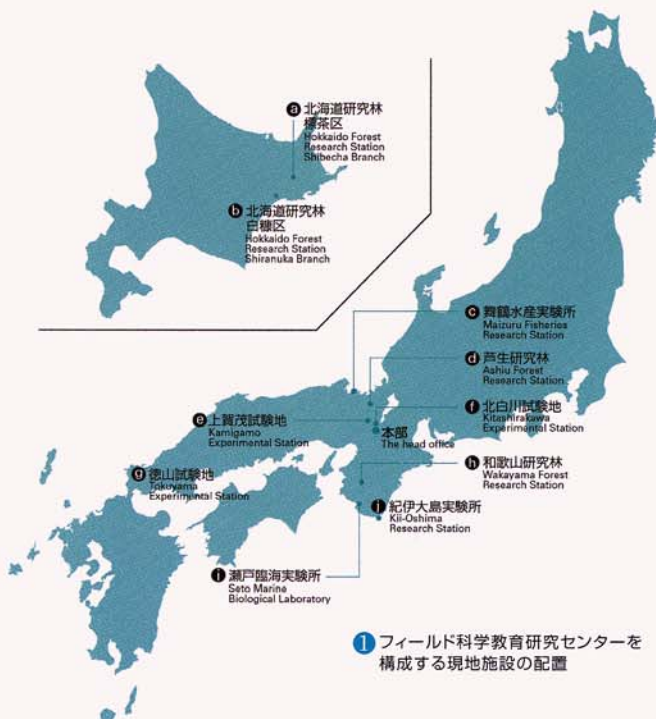
2



3



4



1 フィールド科学教育研究センターを構成する現地施設の配置

- 右ページ写真 2 北海道研究林における冬季森林実習 3 芦生研究林の研究管理棟 4 舞鶴水産実験所遠景  
左ページ写真 5 瀬戸臨海実験所附属水族館 6 古座川調査風景

北海道研究林：北海道の東部に位置し、釧路市の北北東約45kmの標茶区と西約40kmの白糠区の2箇所よりなる。気候は夏季の濃霧や冬季の乾燥した厳しい寒さ（最低気温はマイナス30℃近く）で特徴づけられる。釧路湿原、阿寒、知床の3つの国立公園と至近距離にあり、その地域特性を生かした天然林の林分動態、森林の垂直分布、火山性土壌、凍土・雪氷等に関する実習が行われている<sup>2</sup>。

## 重要施設の紹介

フィールド研の現地施設は、北海道2、京都府4、和歌山県3、山口県1の合計10施設よりなる<sup>1</sup>。これらの中で、森里海連環学実習やポケット・ゼミの拠点となっている施設の概要は以下のとおりである。

- 1 北海道から山口県に至る遠隔地の現地施設を拠点にした組織である。
- 2 多くのセンターの中で、名称に「教育」を冠にした数少ない共同利用施設である。
- 3 新たな統合学問領域「森里海連環学」の創生を展望した施設である。  
以上のような特徴を生かし、教育面においては現地施設におけるフィールド実習をベースにした全学共通教育に力を注いでいる。とりわけ「森里海連環学実習」や毎年10数科目を提供している新入生向け少人数ゼミナー（ポケット・ゼミ）を各地の現地施設において実施し、自然から学ぶ機会の充実を図っている。



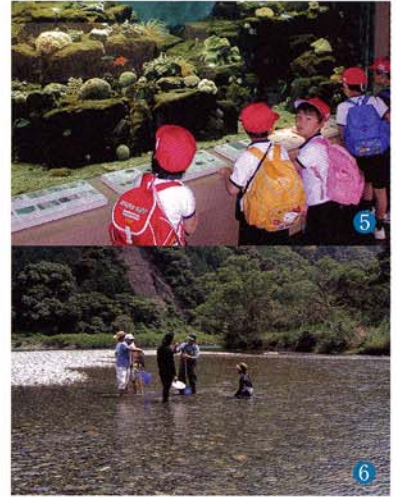
フィールド科学教育研究センター長  
田中 克 (たなか まさひろ)

1943年生まれ 滋賀県出身  
専門分野：海洋資源生物学。稚魚の生理生態研究。  
有明海特産稚魚の長期研究より、大陸沿岸遺存  
生態系仮説を提唱し、森里海連環学の創生を展望。

芦生研究林：京都府の北東部に位置し、氷河期の遺産的植物も含めてその種類数は極めて豊富であり、原生的な天然林として貴重な存在である。フィールド研の全学共通教育の他に、農学部・理学部・総合人間学部等の実習や他大学の実習などに幅広く利用されている。本研究林は由良川源流域にあたり、その河口域近くに位置する舞鶴水産実験所との間で森川海をつなぐに關する教育研究の推進が展望されている③。

舞鶴水産実験所：日本海沿岸のほぼ中央に位置する舞鶴湾内にある。由良川が流入する若狭湾西部海域を主要なフィールドにした魚類・ベントス類の生態や行動ならびに仔稚魚の飼育実験の研究が進められている。また、当実験所には30万点にのぼる魚類標本が収蔵され、魚類の分類学的研究も進められている。近年、社会的要請に応じて小・中・高生ならびに市民向けの教育や講演活動が精力的に進められている④。

瀬戸臨海実験所：紀伊半島西岸白浜町の田辺湾口に位置し、無脊椎動物の系統分類学・生態学・発生学・保全生物学などの自然史研究が進められている。また、わが国の臨海実験所で唯一附属水族館を持ち、年間6万人の入館者に研究成果を公開し、本学の中で最も広く社会に開かれた施設として重要な役割を担っている。理学部向けの臨海実習、全学共通科目向けの実習、全国向けの公開臨海実習等を提供している⑤。



紀伊大島実験所：紀伊半島南端串本町にある紀伊大島のほぼ中央部に位置する。暖流黒潮の影響を受け、気候は温暖で所内にはスタジイやヤマモモなど照葉樹が繁茂する。紀伊大島生物相の史的解明や黒潮文化圏における資源生物複合の保全研究が進められている。最近では森里海連環学の柱の一つとして清流古座川をモデルにした「古座川プロジェクト」の研究拠点として重要な役割を担っている⑥。

以上の現地施設とともに、研究林系の施設として京都市内には上賀茂試験地と北白川試験地(北部構内)、和歌山県清水平町には和歌山研究林、山口県周南市には徳山試験地を有している。これら全国10箇所の遠隔地施設間の連絡調整や企画全般に關する本部は、北部構内農学部総合館(北東角)に存在する。

### 森里海連環学実習

フィールド研は森林の生態・資源・利用に關する現地施設と海の資源・生物に關する現地施設の統合を基礎に、これまで別々に進められてきた教育研究の統合化を図り、森・里(川)・海をつなぐに焦点を当てた森里海連環学実習を最も重要な全学共通科目として推し進めている。この実習は、フィールド体験を通して森と里(川)と海をつなぐへの理解を深めることを目的に、京都府北部の由良川水系(芦生研究林・舞鶴水産実験所)、和歌山県南部の古座川水系(和歌山研究林・瀬戸臨海実験所)、紀伊大島実験所、北海道東部の別寒辺牛川水系(北海道研究林・北海道大学厚岸臨海実験所)において、夏季集中で実施されている。2005年度より、本実習は京都大学フィールド研と北海道大学北方生物圏フィールド科学センターの連携のもとに取り組まれ、両大学よりほぼ同数の学生が参加する形となっている。いずれの実習も現地施設をベースにフィールド観察・講義・成果発表・レポート作成などを通じて、自然と自然や人と自然の有形・無形のつながりの重要性を知る機会として、その教育効果は大変大きいと評価される。特に、最近では子供の頃に自然と触れ合う経験が少ない学生にとつて、1週間のフィールド実習は、各々が自然と關わる「原体験」ともなっている。年を追うごとに実習のフィールドとなる地域社会の関心も高まり、いろいろな協力の輪が広がり、地域教育としても注目されている。

京都大学が北海道を含む全国各地に多様なフィールド系現地施設を持つことは、未だ十分には知られていない。大部分の施設は宿泊施設を有している。実習としての利用だけでなく、全学の構成員、とりわけ学生の皆さんには個人やグループで有効に利用していただきたいと願っている。

### 施設利用等の詳細は

フィールド研本部(企画情報室)

TEL 075-753-6420 (にご連絡下さい。)

フィールド研情報は下記まで

<http://www.fserc.kais.kyoto-u.ac.jp/>